

新潟県特別栽培農産物 認証制度の改正について



令和6年2月
新潟県上越地域振興局

認証制度の成果と今後の方向性

- ◆ 認証制度開始から25年が経過し、信頼性確保の重要性は関係者に浸透している
- ◆ 継続して県認証に取り組む農業者が大宗を占め、環境負荷を軽減した生産方式は拡大

[参考] 新潟県特別栽培農産物の認証面積

H10 : 101ha R4 : 7,971ha

(全県の特別栽培農産物作付面積26,072ha)

国ガイドラインに即して申請者、確認責任者の責務を明確にし、制度の信頼性を担保したうえで、事務負担を軽減する。

変更の概要

- 1 . 認証手続きの簡素化
生産登録の廃止
栽培管理状況報告の廃止
県による現地調査の縮小
- } 申請の一本化
- 2 . 申請書の簡素化
申請書記載項目の削減
添付書類の削減

変更点 認証手続きの簡素化（申請の一本化）

- 認証申請 生産登録、栽培管理状況報告 認証の2段階の手続きを認証申請1回に集約する

申請期限

区分	改正後	改正前
米	7月1日	第1回:3月1日 第2回:6月1日
精米	11月30日 (追加は翌年6月30日まで)	8月15日 (新規取組者は11月1日～30日にも受け付け。追加は翌年6月30日まで)
上記以外	随時	第1回:3月1日 第2回:6月1日 第3回:9月1日

変更点 認証手続きの簡素化（申請の一本化）

申請の条件

- 使用資材（化学肥料、節減対象農薬）が確定してから申請すること
- 申請前に確認責任者による栽培管理計画の確認と現地調査を受けること（精米申請の場合は精米確認者による出荷計画・とう精計画の確認）
- 栽培管理計画・とう精計画を変更した場合は、確認責任者による確認を受け、変更した書類を県に提出すること

使用資材や精米数量の変更等

変更点 認証手続きの簡素化（現地調査の縮小）

これまで、県による現地調査は、概ね3～5年に一度（新規申請者は、原則として全員）の頻度で実施

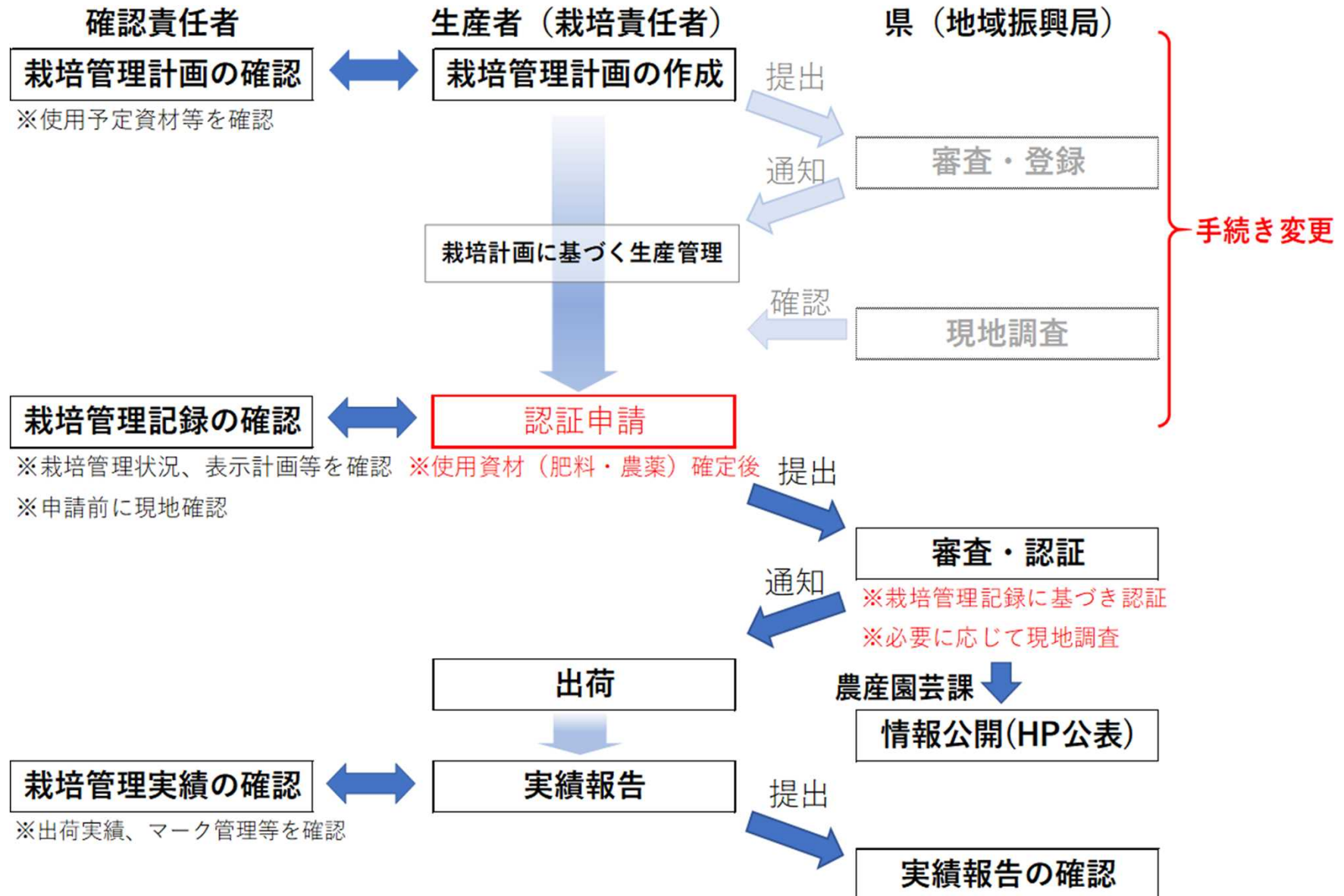
調査対象の考え方

対象者	対応方針
継続申請者	地域振興局による抽出 (申請書の作成状況、制度の理解度等を勘案し、少なくとも5年に1回は調査を実施します。)
新規申請者	原則として全員

特別栽培農産物の不適切な生産・表示の懸念がある場合は、抜き打ちで現地調査を行います。



県認証手続きの概略図（改正後）



変更点 審査の効率化（申請書記載項目の削減）

- 申請書と添付書類の重複記載を削減
- 栽培管理記録の簡素化
 - 化学合成由来の窒素成分を含む肥料及び節減対象農薬のみ記載
 - 化学合成由来の窒素量が確認できる資料（カタログ等）を添付（審査の効率化のため）

確認責任者へのお願い

確認責任者は、記載すべき化学肥料及び節減対象農薬の記載漏れがないか、申請者の栽培記録（すべての使用資材）を確認してください

変更点 審査の効率化（添付書類の削減）

- 生産ほ場看板（別記1）、表示票（別記2）、確認責任者設置概要の県への提出は不要
- ほ場位置図は、新たに「ほ場一覧表」に改正

確認責任者へのお願い

確認責任者は、現地確認時にほ場に看板が設置されていることを確認してください

また、実績確認時に適切な表示で出荷されていることを確認してください

その他の変更点

- 認証申請書の押印を廃止
すべての書類で電子メールでの提出が可能に



- 地域慣行栽培基準の改正（次のスライド）

地域慣行栽培基準 改正の背景

- コシヒカリでは、異常高温時の管理対策として、生育を診断し、気象予報を参考にした上での肥料の追加施用を推奨
- 近年は、8月の高温予想が常態化しており、追加施用が既に慣行栽培の取組となっていると判断される

地域慣行栽培基準 改正内容

- 上越地域一般（妙高市、中郷区を除く）、糸魚川地域一般の化学肥料使用量（窒素分量）を1kg/10a増加する。

特別栽培農産物に係る表示ガイドラインに基づき
新潟県が定める地域慣行栽培基準及び特別栽培農産物使用基準

制定 平成10年8月3日
最終改正 令和6年1月18日

1 米の部

地域区分	品種・区域	節減対象農薬使用回数 (成分回数)		化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)		適用品種
		慣行栽培基準 (回)	特別栽培農産物 使用基準 (回以下)	慣行栽培基準 (kg)	特別栽培農産物 使用基準 (kg以下)	
上越地域	一般（妙高市、 中郷区を除く）	18	9	<u>7</u>	<u>3.5</u>	下記以外の品種
	早生（妙高市、 中郷区を除く）	18	9	8	4	わたぼうし
	妙高市、 上越市中郷区	18	9	9	4.5	全品種
糸魚川地域	一般	17	8	<u>7</u>	<u>3.5</u>	下記以外の品種
	早生品種	17	8	8	4	わたぼうし